

青森市埋蔵文化財調査報告書 第84集

し ん ま ち の
新 町 野 遺 跡

発掘調査概報



平成 17 年度

青森市教育委員会

序

青森市教育委員会では、平成15年度より東北新幹線建設工事に伴う新町野遺跡の発掘調査を実施してきており、今年度も第三次に相当する発掘調査を実施しました。

調査の結果、縄文時代の竪穴住居跡、土坑、溝状土坑、埋設土器遺構、平安時代の竪穴住居跡、土坑、円形周溝などの遺構や縄文時代、平安時代の遺物を検出しております。前回までの調査成果に加え、縄文時代や平安時代の人々の生活を知る上で貴重な資料を得ることができました。

本書は、調査成果について写真図版等を多用し、発掘調査概報としてまとめたものです。本書が地域の歴史・文化の理解を深める一助となることができれば幸いと存じます。

最後に、終始にわたりご指導・ご協力くださいました関係各機関および関係各位の皆様には厚くお礼申し上げます。

平成 18 年 3 月

青森市教育委員会

教育長 角 田 詮二郎

例 言

- 1．本書は、青森市教育委員会が平成17年度に実施した東北新幹線建設工事に伴う新町野遺跡発掘調査の概要報告書である。
- 2．新町野遺跡発掘調査は、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構の委託を受けて実施した。
- 3．新町野遺跡の遺跡番号は、01161である。
- 4．平成15・16年度調査成果については、平成17年度に発掘調査報告書刊行を予定している。本書の内容については、発掘調査を継続して実施する予定であることから、調査対象区全域の調査終了後に発掘調査報告書を刊行する予定である。
- 5．本書の執筆は、蝦名純（青森市埋蔵文化財調査員）、稲垣森太（青森市埋蔵文化財調査補助員）が行い、編集は蝦名が行った。
- 6．発掘調査の実施にあたって、次の機関からご指導・ご協力をいただいた。記して謝意を表する。
青森県教育庁文化財保護課、青森県埋蔵文化財調査センター、南部二区連合町会

目 次

序	
例言	
目次	
はじめに.....	1
周辺の遺跡.....	2
今年度の調査から.....	3
縄文時代の遺構・遺物.....	6
平安時代の遺構・遺物.....	10
まとめ.....	12

はじめに

新町野遺跡は、青森市大字新町野字菅谷に所在する、縄文時代と平安時代の時期を主体とする遺跡です。本遺跡は以前から遺跡の所在が知られ、昭和54年度に遺跡番号01161として青森市の遺跡台帳に登録されています。最近まで山林や畑地、公園緑地として利用されていました。

平成14年に東北新幹線八戸駅が開業し、その後新青森駅～八戸間の工事も進んでいます。新幹線建設工事予定地には県内で約30箇所以上の遺跡が所在し、これらの遺跡の対応については、独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構（旧日本鉄道建設公団、以下鉄道・運輸機構とする）と青森県文化財保護課、関係各機関で協議した結果、多数が記録・保存を前提とした発掘調査の実施を必要としました。青森市でも本遺跡を含め複数の遺跡が所在し、そのうち石江遺跡群、合子沢松森(2)遺跡については遺跡所在地である青森市教育委員会に調査が依頼されており、既に当委員会で発掘調査が実施されています。

新町野遺跡も東北新幹線建設工事予定地内に所在する遺跡です。当委員会では鉄道・運輸機構の委託を受け平成15年度から発掘調査を実施しています。

今回の調査は、第三次調査にあたり、平成17年5月9日から11月30日までの期間実施しました。第一次から第三次調査の調査面積を合わせると約34,000㎡となります。

本書では、今年度の調査成果を中心に概要を報告いたします。



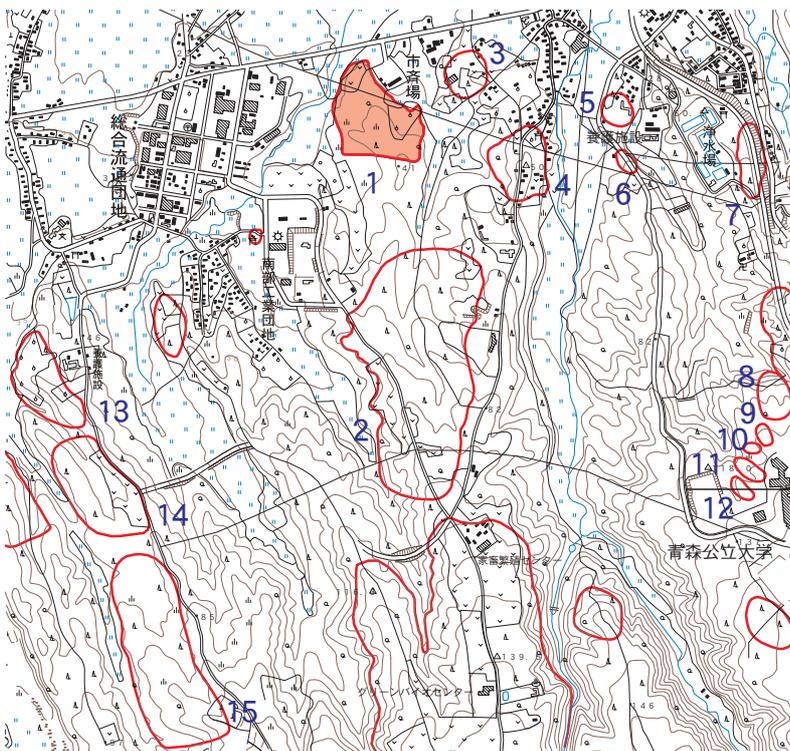
調査前風景

周辺の遺跡

新町野遺跡は、青森市街地から直線距離で6 kmほど南、牛館川と合子沢川に挟まれた八甲田山の裾野にひろがる台地上、標高20～40mほどの丘陵地に立地しています。

本遺跡は、昭和54年度に青森市の遺跡に登録され、過去に何度か発掘調査が実施されています。最近の調査では、平成9年度の当委員会による市道野木・新町野線道路改良工事に伴う調査で、縄文時代前期末葉の竪穴住居跡や縄文時代の土坑、平安時代の竪穴住居跡などが見つかりました。平成10年度の青森県埋蔵文化財調査センターによる青森中核工業団地遊水地建設事業に伴う調査では、縄文時代前期末葉の大型住居跡や平安時代の竪穴住居跡、鉄を生産するための炉跡などが見つかりました。また、同年の当委員会による青森中核工業団地造成工事に伴う調査では、縄文時代の遺構・遺物や平安時代の竪穴住居跡などのほかに、平安時代のお墓といわれている円形周溝が11基見つかりました。

青森市内には現在約380箇所の遺跡が所在し、本遺跡の周辺でも遺跡が見つかりました。発掘調査が実施されている遺跡もあり、本遺跡からみると、南には野木遺跡があり、平安時代の大規模な集落跡、鉄や土師器の生産に関連する遺構などが見つかりました。南東にある合子沢松森(2)遺跡では平安時代の円形周溝や竪穴住居跡のほかに、土師器の甕の2個体の口を合わせて横位に埋められていた土器埋設遺構が見つかりました。合子沢川右岸の標高が30mほどの丘陵地には横内(1)遺跡があり、縄文時代前期の集落跡や縄文時代早期の土器も見つかりました。さらに南東側青森公立大学付近では、雲谷山吹(3)～(7)遺跡が所在し、平安時代の集落跡などが見つかりました。西を見てみると、葛野(1)～(3)遺跡があり、縄文時代や平安時代の集落跡などが見つかりました。



周辺の遺跡位置図

番号	遺跡名	時代
1	新町野	縄文(前・中)平安
2	野木(1)	縄文(早～晩)平安
3	合子沢松森(1)	縄文
4	合子沢松森(2)	平安
5	横内(1)	縄文(早、前)
6	横内(2)	縄文(早、前)平安
7	桜峯(2)	縄文(前～晩)
8	雲谷山吹(3)	縄文(前・中)
9	雲谷山吹(4)	縄文(中・晩)
10	雲谷山吹(5)	縄文(中～晩)平安
11	雲谷山吹(6)	縄文(前～後)平安
12	雲谷山吹(7)	縄文(前～後)平安
13	葛野(1)	縄文
14	葛野(2)	縄文、弥生、平安
15	葛野(3)	縄文、平安、中世

周辺の遺跡一覧表

今年度の調査から

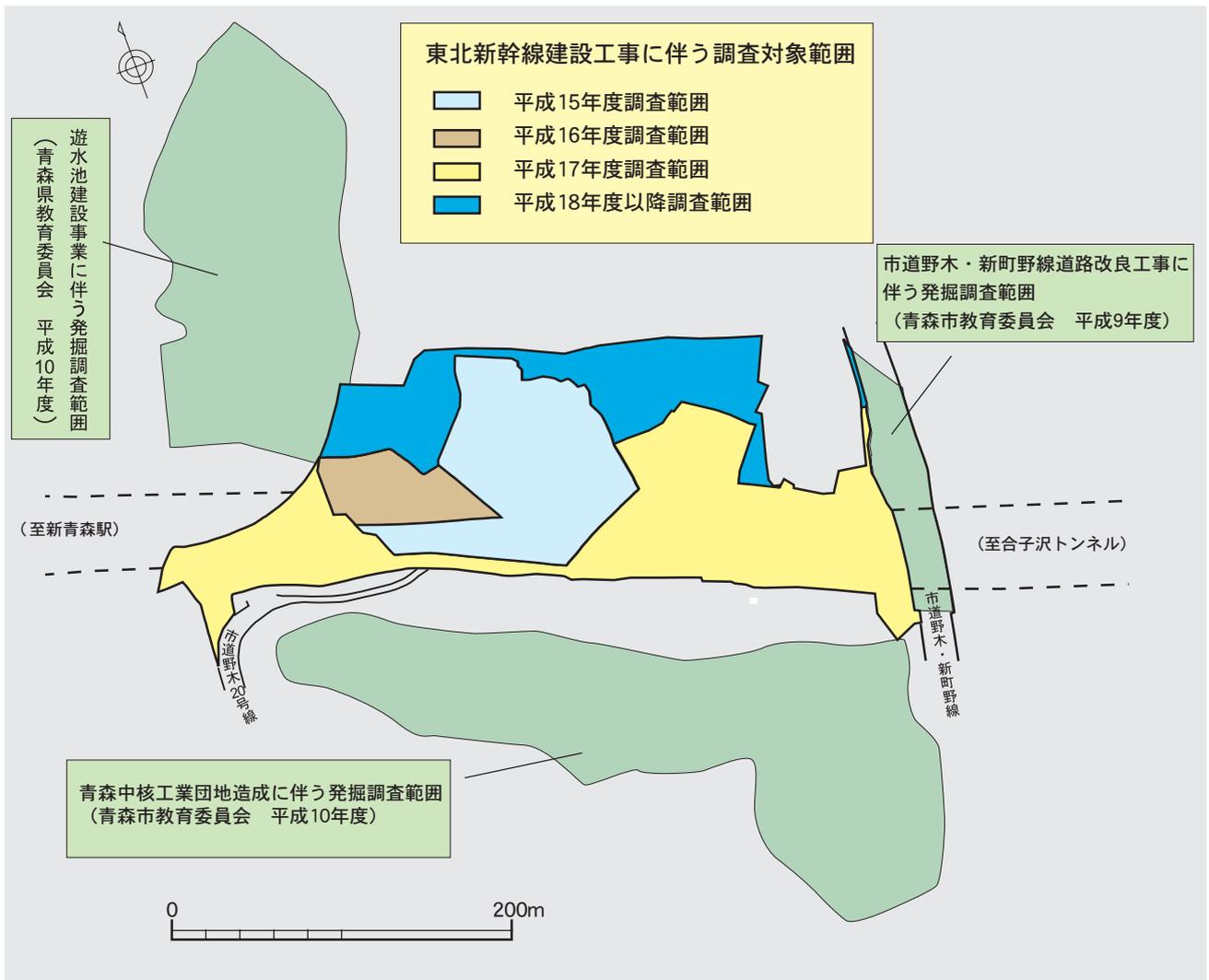
当委員会では、東西に約450m、南北に20～130m、標高が21～37mの丘陵地の平坦部や斜面を対象に調査を実施しております。今回の調査面積は、約20,500㎡となります。

今回の調査区は、東西に約450m、南北に20～100mの範囲で、丘陵地を縦断する形となります。調査区東側は、丘陵地の頂部から緩やかな斜面にかけて調査しました。調査区西側は、丘陵地の南から北へ向かって緩やかに傾斜する斜面を主体に調査しました。広い範囲で土取りされており、さらに重機などで深く削られ遺構が壊されている部分も見られました。

前回までの調査では、縄文時代の土坑や溝状土坑、埋設土器遺構、平安時代の竪穴住居跡や土坑、円形周溝などが見つかっています。今回の調査では、それら
の他に縄文時代の竪穴住居跡が見つかっています。



遺跡遠景



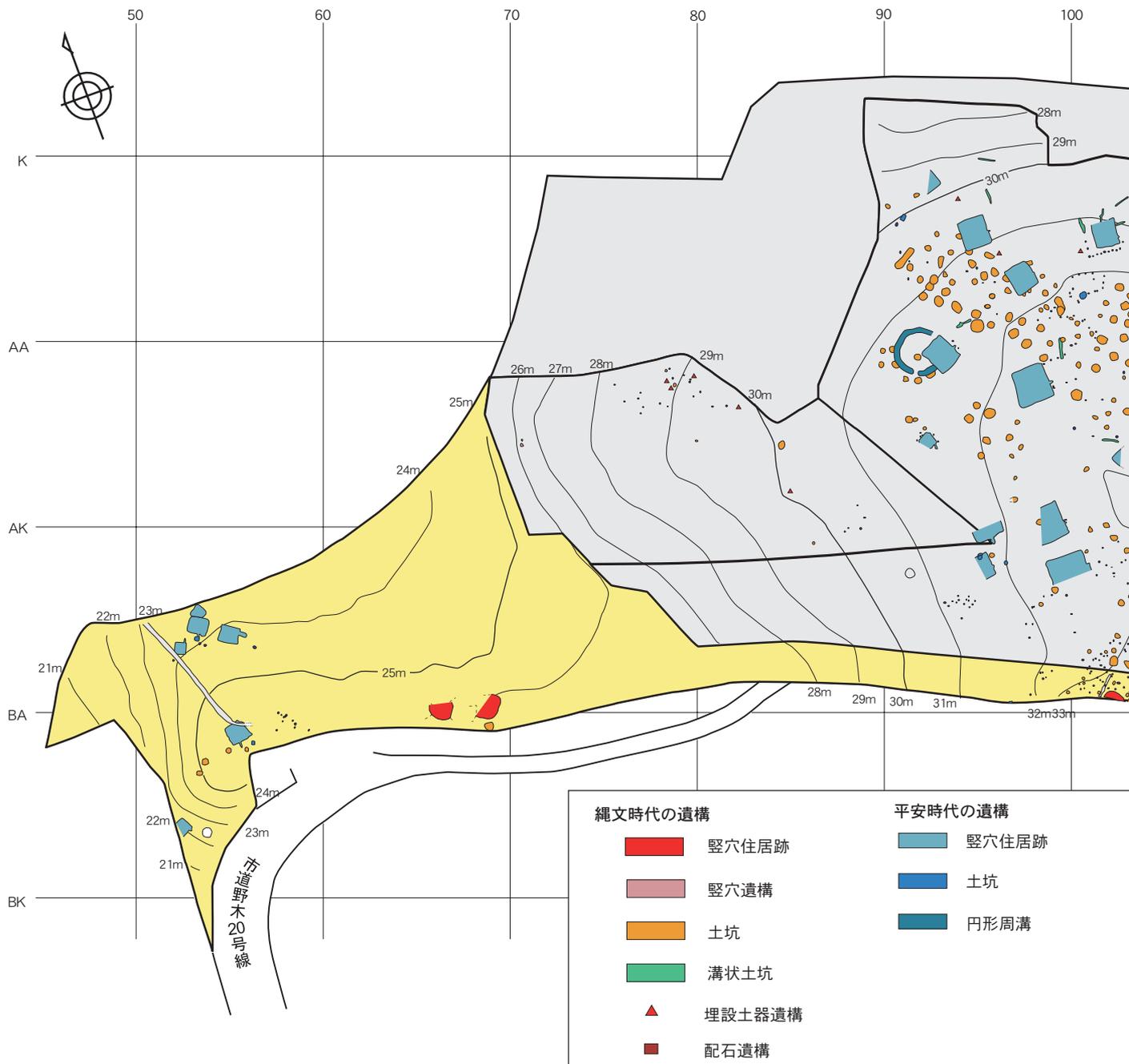
調査対象範囲図

縄文時代の遺構は、竪穴住居跡、竪穴遺構、埋設土器遺構、フラスコ状や袋状の土坑、溝状土坑、配石遺構です。調査区の中央部で見つかった竪穴住居跡や土坑は、前回までの調査で見つかった、列状に並ぶような配置の土坑と連続する分布状況となっています。遺物は、縄文時代前期末葉の土器がほとんどで、竪穴住居跡や土坑の中からまとめて見つかっています。

平安時代の遺構は、竪穴住居跡や円形周溝、土坑が見つかっています。遺物は、主に竪穴住居跡覆土から、土師器や須恵器が見つかっています。

その他に、井戸跡、溝跡、焼土状遺構、柱穴状ピットが見つかっています。遺物などが出土せず、明確な時期は不明です。

遺構分布状況図

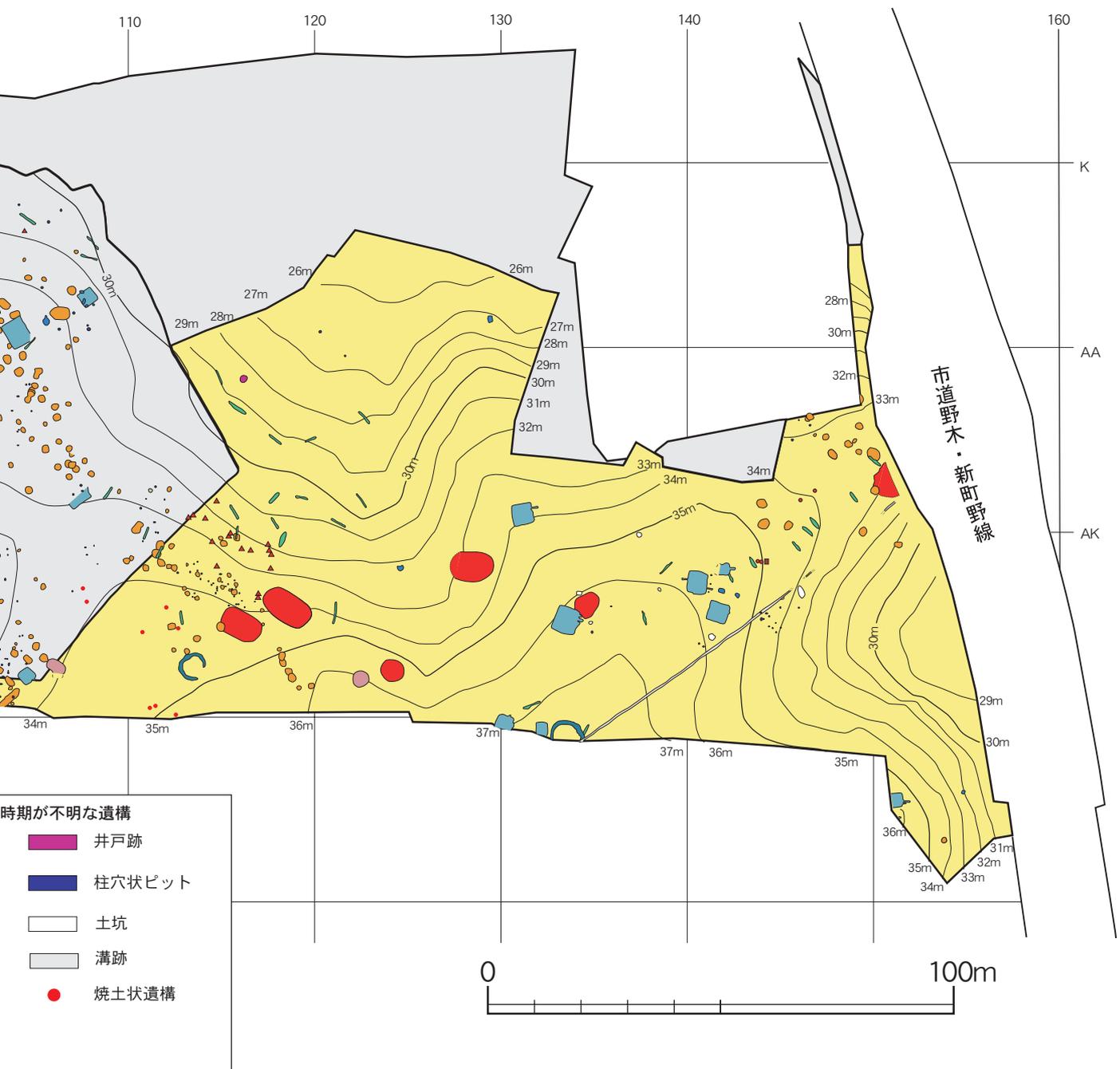




調査風景



調査風景



縄文時代の遺構・遺物

縄文時代の遺構

竪穴住居跡

縄文時代の竪穴住居跡は、9軒見つかっています。調査区東側では、標高が33m前後の緩やかな斜面上で検出しています。調査区の西側では、削平により壊されていたため、床面や柱穴のみの確認となりました。竪穴住居跡は、出土している土器などから、今から約5,000年前の縄文時代前期末葉の時期と考えられます。

平面形は二通りになるようで、小さいものは径が4mほどの円形、大型のものは長軸が10mほどの隅丸長方形となります。

竪穴住居跡の炉は、床面を浅く掘り込んだだけの穴で火を焚いた地床炉^{じしやうろ}や、土器の幅ぎりぎりに掘られた穴に土器を埋めて炉体として使われた、土器埋設炉が見つかっています。土器埋設炉は住居跡の長軸方向の床面に作られていました。

炉のほかの施設としては、床面の壁際にテラス状の段や、住居跡の長軸方向の壁際に特殊施設、住居跡中央に土坑などが見られました。

テラス状の施設は、膝位の高さで、住居跡の壁際をめぐるります。物を置いたり、人が横になったりしたものかもしれません。

特殊施設は、住居跡の壁際に見られ、地山を土手状に掘り残して作られています。祭壇などの用途が考えられています。また、住居跡中央には、穴の縁に粘土が堤状に貼り付けられ、床面より少し高くなる土坑が見つかっています。遺物などの出土が少なく、どのような用途があるのかは不明です。

大型の住居跡は、3軒見つかっており、中央に粘土が貼り付けられた土坑、その土坑を挟むように2基の炉、6本の柱穴、壁際のテラス状の施設、壁柱穴を持つなど、住居内の施設に共通する位置関係が見られます。



竪穴住居跡 全景



土器埋設炉



竪穴住居内 特殊施設



粘土が貼り付けられた土坑

竪穴遺構

竪穴遺構は、2基見つかっています。平面形は、円形と隅丸長方形です。小さな竪穴住居跡と平面形や大きさが似ていますが、炉や柱穴が見られません。底面は平たく、竪穴住居跡と同じようなテラス状の段を持つものがあります。住居跡のように日常的に使われるのではなく、作業場のような、一時的に使用する場所だったのかもしれませんが。

土坑

土坑の多くは、断面の形がフラスコ状や袋状で、縄文時代前期の遺物が出土するものが多いようです。これらの土坑は、食べ物などを貯蔵していたと考えられています。

フラスコ状の土坑のうち、粘土が厚く堆積しているものが見つかりました。粘土の直下や土坑の底面で、ほぼ完全な形で土器が残っていました。当時の人々が、土器を置いた後に、粘土をかぶせるように埋めたようで、貯蔵以外の用途も考えられます。

また土坑のなかには、長さが5mほどの隅丸長方形をしたものや、掘り込みが浅く隅丸方形となるものも見られました。

埋設土器遺構

埋設土器遺構は、竪穴住居跡の付近で、16基まとまって見つかっています。土器を地面に埋めて子供のお墓として使われていたようです。土器の上部や内側に、川原石が入っているものも多く見られます。これらの石は墓標などとして置かれたようです。

溝状土坑

溝状土坑は、26基見つかっています。調査区内の沢地に向かう斜面に多く見られました。細長い溝状の穴で、幅が0.4m、深さが0.8m、長さが3mほどのもので、中には長さが4mを超えるものも見つかっています。縄文時代の狩猟用の落とし穴と考えられています。



竪穴遺構 全景



土坑の断面



埋設土器遺構 側面



溝状土坑 断面

縄文時代の遺物

縄文時代の遺物のほとんどは前期末葉の土器で、
竪穴住居跡や土坑からの出土がほとんどです。中
期と後期の土器も少量ですが散発的に出土してい
ます。

前期末葉の土器は、今から約5,000年前の円筒
下層d式に相当するものです。

土器の形は、バケツを細長くのばしたような円
筒形をしています。口縁部には、縄を撚りあわせ
た縄文や、細い棒に縄を巻きつけた絡条らくじょうたい体を押し
付けて文様を付けています。胴部には、縄文や
絡条体を回転させて文様を付けています。

土器は、煮炊きなどに使われる他、子供のお墓
や竪穴住居跡の炉体にも使われていたようです。

これらの土器の他に、縄文時代前期の東北地方
南部や他の地域の土器の影響を受けているものも
見られます。本遺跡で見つかった土器とは、
土器の形や文様の付け方に違いが見られます。当



縄文時代前期、中期、後期の土器



他地域の影響を受けた土器



縄文時代前期の土器

時の人々が、他の地域の人々と交流していたことが考えられます。

石器は、狩猟に使われる矢に付けられる^{せきぞく}石鏃、ナイフのように使われたと思われる^{せつび}石匙、動物の皮を剥く道具と思われる^{はくへん}石篋などの^{はくへん}剥片石器やドングリなどの木の実などをつぶしたり、たたいたりする時に使われる^{こうまき}敲磨器、^{ませいせき}磨製石斧、^{はんえんじょう}半円状^{へんべい}扁平打製石器などが出土しています。

土製品は、土器の破片の周囲を打ち欠いたりこすったりして、丸く加工している土器片利用土製品や、ミニチュア土器、短い棒状の土製品が出土しています。

石製品では、^{けつじょう}装飾品としての^{けつじょう}玦状耳飾りや、軽石を加工して平坦な面や球状の部分を作り出し、スタンプのような形となるものが出土しています。



石器



土製品、石製品

コラム ^{えんとうどき} ~ 円筒土器のはなし ~

縄文土器は、日本列島各地の遺跡から数多く出土します。土器の研究は、考古資料の年代決定において大変有効であり、縄文土器は現在約300種類もの型式に細分されています。これらの多くには土器の型式名として、^{とこしな}十腰内式・^{おおほら}大洞式など出土地の名前が付けられています。しかし、本遺跡からも出土する「円筒土器」は、めずらしくその形状から命名されています。名付け親は、人類学・考古学者であった^{はせべことんと}長谷部言人博士で、1927年の命名です。博士は細長い筒形の土器の形（円筒形）から、現代の祝い酒を入れる柳樽・味噌桶などの古風な桶や樽を思い浮かべました。それが円筒土器命名の由来です。その後、考古学者の^{やまのうちの}山内清男博士が縄文時代前期の下層式と中期の上層式に大別し、現在ではさらに細分されています。



円筒土器の出土状況

本遺跡で出土した円筒土器は下層d₁式～上層a式に分類されるもので、縄文時代前期末葉から中期初頭にあたり、今から約5,000年前という年代が考えられます。この円筒土器を使用していた人たちは、日本列島のなかで広域な文化圏を形成していました。円筒土器下層式の文化圏は、青森県を中心として北は北海道の^{とまこまい}苫小牧市から^{いしかり}石狩市にかけての石狩低地帯、南は秋田県秋田市・岩手県盛岡市・宮古市付近にまで広がり、さらに南下した石川県でも円筒土器の発見例があります。縄文時代中期の円筒土器上層式の文化圏は、濃密な分布範囲は下層式とほぼ同じですが、北方に広がりがみられ、北海道の礼文島でも上層式の影響を受けた土器の発見例があります。このことから、当時は文化の交流と人の移動が、広範囲で行われていたであろうと考えられています。

平安時代の遺構・遺物

平安時代の遺構

竪穴住居跡

平安時代の竪穴住居跡は、調査区の東側と西端で15軒見つかっています。平面形は方形で、カマドなどの施設が見られます。

カマドは、煮炊きなどに使われる施設で、壁際から地下を通して煙を外に出す構造となっています。カマドの向きは、東、北東、西、南向きなど、様々な向きのものが見られます。

また、10世紀前半に降下した火山灰が堆積している住居跡も見られます。火山灰は、降下した年代が判るため、遺構の時期を推定する重要な手がかりとなります。

調査区東側と西端の住居跡では、カマドの向きや、火山灰の堆積状況に違いがあるようです。

東側の住居跡では、カマドは東向きのものがやや多く見られ、床面で火山灰を確認しています。西端の住居跡では、カマドは南向きのもので、住居跡の覆土上部で火山灰を確認しています。

住居跡のうち、床面や壁面が熱を受けて赤くなっている範囲や、火を受けて焼け落ちた住居の建築部材が炭化した状態で残っているものが見つかります。自然に発生した火災なのか、意図的に燃やしたものなのかは、遺物や痕跡の検証が必要です。

土坑

平安時代の土坑は、調査区内で散発的に見つかっています。平面形が長方形や方形となるもので、炭化物が層状に堆積し、壁面や底面に赤く変色している部分が見られます。これらの土坑は、炭などを生産していたと考えられ、焼成土坑とも呼んでいます。



竪穴住居跡 全景



カマド検出状況



竪穴住居跡 炭化物出土状況



土坑 炭化物出土状況

円形周溝

円形周溝は、調査区中央部の南側で2基見つかっています。平面形は、浅い溝がC字形に掘られています。南東側の一部が途切れる形となりますようです。

土師器などは出土していませんが、溝の上面で平安時代前半に降下した火山灰を確認しています。

この遺構は、平安時代のお墓と考えられていますが、古墳で見られるような埋葬用の主体部は見つかっていません。



円形周溝 全景

平安時代の遺物

平安時代の遺物は、土師器や須恵器などが見られます。竪穴住居跡からの出土がほとんどで、炭化材が多量に見つかった住居跡から、複数の土師器の坏と須恵器の小壺がほぼ完全な形のまま出土しています。

土師器は、坏や甕が出土しています。坏には、底面にロクロから切り離すときにできる糸切り痕が残っているものや、内面を黒く処理しているものがあります。甕の底には砂が付着しているものやヘラナデなどの痕跡が観察できます。

須恵器は、土師器に比べるとごく少量で、甕や壺が出土しています。ほとんどが破片での出土でしたが、甕の表面には形を整えるために叩いた痕跡が観察できます。



須恵器 壺



土師器 坏・甕

ま と め

新町野遺跡は、青森市大字新町野字菅谷に所在し、青森市南部の標高20～40mの丘陵地に立地しています。縄文時代前期と平安時代の時期を主体とする遺跡です。

調査の結果、竪穴住居跡24軒、竪穴遺構2基、土坑82基、埋設土器遺構16基、溝状土坑26基、配石遺構1基、井戸跡1基、円形周溝2基、焼土状遺構12基、溝跡3条、柱穴状ピット103基などの遺構と、縄文時代前期末葉の土器、平安時代の土師器、須恵器、石器などの遺物が整理用コンテナで115箱分見つかっています。

縄文時代では、前回までの調査で見つかった土坑や埋設土器遺構、溝状土坑などの他に、竪穴住居跡が見つかりました。竪穴住居跡は、土器埋設炉などから縄文時代前期末葉の時期が考えられます。大型の住居跡も見つかり、住居跡の長軸方向中央に土坑、その土坑を挟むように2基の炉が位置し、3軒の住居跡に共通する配置となっています。土坑は、フラスコ状や袋状となるものが約50基と大半を占めます。これらの土坑には、堆積土の中央に厚く堆積する粘土や、完形土器などが見られるものがあり、貯蔵以外の用途も考えられます。また、前回までの調査で、土坑が列状に並ぶような配置を確認しています。今回、見つかった土坑のうちのいくつかは、この配置に連続すると思われる。埋設土器遺構は、竪穴住居跡の付近で、16基まとまって見つかりました。埋められていた土器から、縄文時代前期末葉のものと考えられます。

平安時代では、竪穴住居跡、土坑、円形周溝が見つかりました。竪穴住居跡では、住居のカマドの向きや火山灰の堆積状況に違いが見られました。また、焼失した住居跡も見つかりました。円形周溝は、2基見つかりました。遺物や主体部は見つかりません。土坑は散発的な検出で、製炭などの焼成がなされたと思われるものが6基見つかりました。

本遺跡では、以前にも別地点で調査が行われ、多数の遺構・遺物が検出されています。当委員会が調査を実施及び予定している区域は、以前に調査が行われた区域の中間にあたります。今後の調査により、本遺跡が立地する丘陵地の利用状況や遺跡の範囲の広がりなど、本遺跡の性格がより明らかになると考えられます。



作業風景

既刊埋蔵文化財関係報告書一覧

青森市の文化財	1	1962	『三内霊園遺跡調査概報』	青森市埋蔵文化財調査報告書	
"	2	1965	『四ツ石遺跡調査概報』	"	第46集 1999 『新町野・野木遺跡発掘調査概報』
"	3	1967	『玉清水遺跡調査概報』	"	第47集 1999 『稲山遺跡発掘調査概報』
"	4	1970	『三内丸山遺跡調査概報』	"	第48集 2000 『熊沢遺跡発掘調査報告書』
"	5	1971	『野木和遺跡調査報告書』	"	第49集 2000 『稲山遺跡発掘調査概報』
"	6	1971	『玉清水 遺跡発掘調査報告書』	"	第50集 2000 『小牧野遺跡発掘調査報告書』
"	7	1971	『大浦遺跡調査報告書』	"	第51集 2000 『桜峯(1)・雲谷山吹(3)遺跡発掘調査報告書』
"	8	1973	『孫内遺跡発掘調査報告書』	"	第52集 2000 『大矢沢野田(1)遺跡調査報告書』
		1979	『蚩沢遺跡』	"	第53集 2000 『市内遺跡発掘調査報告書』
		1983	『四戸橋遺跡調査報告書』	"	第54集 2001 『新町野遺跡発掘調査報告書』・野木遺跡発掘調査報告書』
青森市の埋蔵文化財	1983	『山野峠遺跡』		"	第55集 2001 『小牧野遺跡発掘調査報告書』
"	1985	『長森遺跡発掘調査報告書』		"	第56集 2001 『稲山遺跡発掘調査報告書』
"	1986	『田茂木野遺跡発掘調査報告書』		"	第57集 2001 『稲山遺跡発掘調査概報』
"	1987	『横内城跡発掘調査報告書』		"	第58集 2001 『大矢沢野田(1)遺跡発掘調査概報』
"	1988	『三内丸山 遺跡発掘調査報告書』		"	第59集 2001 『市内遺跡発掘調査報告書』
青森市埋蔵文化財調査報告書				"	第60集 2002 『小牧野遺跡発掘調査報告書』
"	第16集	1991	『山吹(1)遺跡発掘調査報告書』	"	第61集 2002 『大矢沢野田(1)遺跡発掘調査報告書』
"	第17集	1992	『埋蔵文化財出土遺物調査報告書』	"	第62集 2002 『稲山遺跡発掘調査報告書』
"	第18集	1993	『三内丸山(2)遺跡発掘調査概報』	"	第63集 2002 『稲山遺跡発掘調査概報』
"	第19集	1993	『市内遺跡発掘調査報告書』	"	第64集 2002 『市内遺跡発掘調査報告書』
"	第20集	1993	『小牧野遺跡発掘調査概報』	"	第65集 2003 『雲谷山吹(4)-(7)遺跡発掘調査報告書』
"	第21集	1994	『市内遺跡詳細分布調査報告書』	"	第66集 2003 『稲山遺跡発掘調査報告書』
"	第22集	1994	『小三内遺跡発掘調査報告書』	"	第67集 2003 『深沢(3)遺跡発掘調査報告書』
"	第23集	1994	『三内丸山(2)・小三内遺跡発掘調査報告書』	"	第68集 2003 『近野遺跡発掘調査報告書』
"	第24集	1995	『横内遺跡・横内(2)遺跡発掘調査報告書』	"	第69集 2003 『市内遺跡発掘調査報告書11』
"	第25集	1995	『市内遺跡詳細分布調査報告書』	"	第70集 2003 『小牧野遺跡発掘調査報告書』
"	第26集	1995	『桜峯(2)遺跡発掘調査報告書』	"	第71集 2004 『稲山遺跡発掘調査報告書』
"	第27集	1996	『桜峯(1)遺跡発掘調査概報』	"	第72集 2004 『稲山遺跡発掘調査報告書』
"	第28集	1996	『三内丸山(2)遺跡発掘調査報告書』	"	第73集 2004 『新町野遺跡発掘調査概報』
"	第29集	1996	『市内遺跡詳細分布調査報告書』	"	第74集 2004 『市内遺跡発掘調査報告書12』
"	第30集	1996	『小牧野遺跡発掘調査報告書』	"	第75集 2004 『江渡遺跡発掘調査報告書』
"	第31集	1997	『市内遺跡詳細分布調査報告書』	"	第76集 2005 『栄山(3)遺跡発掘調査報告書』
"	第32集	1997	『桜峯(1)遺跡発掘調査概報』	"	第77集 2005 『赤坂遺跡発掘調査報告書』
"	第33集	1997	『新町野遺跡試掘調査報告書』	"	第78集 2005 『三内丸山(8)遺跡発掘調査報告書』
"	第34集	1997	『葛野(2)遺跡発掘調査報告書』	"	第79集 2005 『市内遺跡発掘調査報告書13』
"	第35集	1997	『小牧野遺跡発掘調査報告書』	"	第80集 2005 『合子沢松森(2)遺跡発掘調査概報』
"	第36集	1998	『桜峯(1)遺跡発掘調査報告書』	"	第81集 2005 『石江遺跡群発掘調査概報』
"	第37集	1998	『新町野遺跡発掘調査報告書』	"	第82集 2006 『三内沢部(3)遺跡発掘調査報告書』
"	第38集	1998	『野木遺跡発掘調査報告書』	"	第83集 2006 『合子沢松森(2)遺跡発掘調査概報』
"	第39集	1998	『市内遺跡詳細分布調査報告書』	"	第84集 2006 『新町野遺跡発掘調査概報』
"	第40集	1998	『小牧野遺跡発掘調査報告書』	"	第85集 2006 『市内遺跡発掘調査報告書14』
"	第41集	1998	『野木遺跡発掘調査概報』	"	第86集 2006 『小牧野遺跡発掘調査報告書』
"	第42集	1998	『熊沢遺跡発掘調査概報』	"	第87集 2006 『新町野遺跡発掘調査報告書』
"	第43集	1999	『市内遺跡詳細分布調査報告書』	"	第88集 2006 『史跡高屋敷館遺跡環境整備報告書』
"	第44集	1999	『葛野(2)遺跡発掘調査報告書』	"	第89集 2006 『篠原遺跡発掘調査報告書』
"	第45集	1999	『小牧野遺跡発掘調査報告書』		

報告書抄録

ふりがな	しんまちのいせきはくつちょうさがいほう
書名	新町野遺跡発掘調査概報
副書名	
巻次	
シリーズ名	青森市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第84集
編著者名	蝦名 純、稲垣 森太
編集機関	青森市教育委員会
所在地	〒038-0012 青森市柳川二丁目1番1号 TEL 017-761-4796
発行年月日	西暦2006年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		世界測地系		調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号	北緯	東経			
しんまちのいせき 新町野遺跡	あおもりしんまちの 青森市大字 新町野字菅谷ほか	02201	01161	40° 46 03	140° 44 58	20050509 ～ 20051130	20,500	東北新幹線建設工事に伴う事前調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
新町野遺跡	集落跡	縄文 平安	竪穴住居跡 24軒 竪穴遺構 2基 土坑 82基 埋設土器遺構 16基 配石遺構 1基 溝状土坑 26基 井戸跡 1基 焼土状遺構 12基 円形周溝 2基 溝 3条 柱穴状ピット 103基	縄文土器 土師器 須恵器 石器 土製品 石製品	

要 約	<ol style="list-style-type: none"> 1. 新町野遺跡は、火山性台地の標高約20～40mの丘陵に立地している。現在、遺跡は畑地・山林・公園緑地となっており、調査区内は部分的に黒土採取のため削平・掘削されていた。 2. 調査範囲は、新幹線の路線部分及び付属する施設の工事用地の幅約20～100m、長さ約450mである。3箇年の発掘調査面積は、約34,000m²である。遺構の分布は調査区外に南北に続く。 3. 今年度調査の結果、縄文時代及び平安時代の遺構・遺物が検出された。主体は縄文時代前期と平安時代の集落跡である。 4. 縄文土器は前期末葉を主体とし、中期・後期が散発的にみられる。前期のものには東北地方南部、他地域の影響を受けたものがみられる。 5. 縄文時代の遺構には、竪穴住居跡9軒、土坑50基、埋設土器遺構16基、溝状土坑26基のほか、竪穴遺構、配石遺構がある。集落の時期は、縄文時代前期末葉である。 6. 平安時代の遺構には、竪穴住居跡15軒、円形周溝2基のほか土坑がある。 7. 平安時代の遺物は、土師器を主体とし須恵器が少量出土している。
-----	---

青森市埋蔵文化財調査報告書 第84集

新町野遺跡発掘調査概報

発行年月日 平成18年3月31日

発行 青森市教育委員会
〒038-0012 青森市柳川二丁目1番1号
TEL 017-761-4796

印刷 青森コ口二一印刷
〒030-0943 青森市幸畑字松元62番3号
TEL 017-738-2021